

地研通信

発行人 藤田 修三
発行所 三重短期大学地域問題
総合調査研究室
〒514-01
津市一身田中野字蔵付157番地
TEL (0592) 32-2342

題字 岡本祐次学長

第3回地研講演会要旨

三重県における計画行政 —第一次 総合計画策定を中心に—

三重県知事公室公報課課長 大原久直氏

〔はじめに〕

地域問題総合調査研究室では行政官庁、学界、産業界、住民組織などから講師を招き、地域で現在何が問題になっているかについて交流を図るために、毎年定期的に講演会を開催している。第3回講演会は、1月29日、三重県知事公室広報課課長 大原久直氏を講師にお招きして、100名を超える本学教職員・学生の参加者により、本学41番教室で開かれた。

以下は、その講演の要旨を採録したものである。(小見出しは編集委員による。)

◇ ◇ ◇

只今、御紹介頂きました県の広報課長の大原です。御紹介頂きましたように県庁に入りましたのは昭和30年12月でございます。早いものでもう31年もたったのかと思っているのですが、そのうち20年は企画畑を歩いてきたわけです。鬼面人を驚かすといいますか、素頓狂な発想をするのが企画の様に思われる方がいます。しかし、奇抜な企画が当たるといことは、めったにないこと、そして、どちらかと言えば裏方に徹するというのが企画ではないかと思えます。

私は、現在広報課課長をしておりまして、人は、県の顔ですわねといってくれますがとんでもないことです。いつも私は裏方ですといっております。本物の企画マンというのは、裏方であるというのを御理解頂きたいと思えます。

1. 第一次長期総合計画の背景

今日の本題の計画行政ということですが、県の第一次長期総合計画についてお話をします。計画と言いましてもいろいろありまして、例えばみなさんが旅行するとか、マイホームを建てるとか、そういった個人的な計画もございますし、行政でも、道路整備5か年計画とか、港湾5か年計画とか、中部圏計画とかいろいろあるわけです。県の場合、色々な計画の中で一番大本になるのが長期総合計画でございまして、今第一次と申し上げましたが、初めてということでもありません。三重県が長期的な総合計画をもちましたのは36年12月のことで三重県長期経済計画というのがまとめられております。その以前にもあったということも聞いております。40年には地域別総合計画というのを策定しました。これは、北勢とか東紀州とかの地域別の計画です。42年になりますと第二次長期経済計画、47年には県政振興計画というのができております。この計画が前田中覚知事の最後の計画になるわけです。47年の3月に公表されたのですが、この47年12月に、現田川知事に引き継がれましたので、わずか9か月で第一次長期総合計画にかわっていったこととなります。この時代の背景ですが、12月の知事選で前田中覚知事が衆議院議員に出馬したため、現田川氏と、当時四日市市長であった九鬼氏、それに遠藤さんとの戦いで、結局田川氏が当選した。翌年の48年4月に私は企画室への異動を命じられ長期計画を担

当することになりました。係長以外3人の小さな係でした。その秋には、三重県政の基本方針という田川知事の新しい方針が出されました。この方針は、企画の先輩で中川さんという方が部屋へ寝具を持ち込み、奥さんのおにぎりの差し入れを受けながら、毎晩がんばって書きあげたという有名なものなのですが、田川知事の第一次総合計画とのワンポイントリリーフといえますか、つなぎの役をしたわけです。それが49年の春に公表されまして、議会なんかでも、非常に好評でした。49年3月にいよいよ新しい計画を作るべし、ということになりまして、私達が担当することになりました。49年4月から2年間、いよいよ計画づくりを始めるわけです。

県の長期総合計画というのは何人ぐらいで作るのだろうということですが、ここにあります緑色のが、私共が作った第一次で、茶色のがこの前できました第二次の総合計画なんです。約300頁ぐらいですが2年がかりの作業となりますとそれなりの体制が必要で、スタッフは自治省から優秀な方が私たちのキャップということで作られて、課長補佐級の主幹が3人、係長2人、主事が3人で始めました。私も難しい仕事をするのだからということなのでしょうが、この時38才で係長にさせていただきました。生意気盛りの係長が計画作りをお手伝いをするということになりました。

田川知事の計画を作るわけですから、一度話をしなければならぬということで、県庁へ入って初めて知事に呼ばれて、9人のスタッフが知事と話をしました。知事が何を言われてもなるほど、なるほどと思ひまして、この話をつなげていったらこんな計画なんてすぐ出来るなと思って帰ってきましたが、つなげてみようと思っても文章にならないのです。いっしょうけんめい聞いていたのですが、あがっていたのかとても文章にはなりません。そんな記憶があります。その時、私は「やるっきゃない」と思いました。私の方が先だったのです。土井さんがまねているんです。私が長計を担当して幸いだったことは、県庁にもハト派とタカ派とあるんです。開発をもっとやるべしとか、「伊勢湾埋太郎」というあだ名の人がいるんです。伊勢湾を全部埋め立てて臨海コンビナートを造るんだとかという考えの

人もいる一方、伊勢湾は砂浜を残さなければいけない、環境優先だという人もおります。私は、尾鷲の出身でして、当時の私は、大きな道路ができる。海水浴場がなくなる、川の水も汚れるということでもどちらかと言えばハト派だったんですけど、ハト派であったために、革新をバックに緑と命を標榜してでてこられた新知事の計画を作るのに、すんなりと入れたのかなあという気がしています。

もう一つは47年～49年にかけて、世の中がガラガラと動いている時期でして、例えて言いますと、47年7月には、かの田中内閣が成立しております。大変な人気でありまして、支持率が62%ということで、今は考えられないですね、評判が悪いですから。列島改造論だとか、あるいは景気拡大、日中国交回復ということで、絶頂でありました。また、福祉元年ということがいわれていまして、70歳以上の医療費をただにしようとか、老齢福祉年金をあげようとか、一連の福祉策が続々とでてきたのが、47・48年頃です。それから昭和元禄という言葉もはやりまして、余暇対策課などというお役所に遊び方についての仕事をする課ができました。さすがに三重県は余暇課というのは作らなかったのですが、話がありまして、余暇行政というのがまかり通った時期でもあります。48年の10月と12月の2回にわたりまして、例のOPECが原油を4倍くらい値上げしまして、大変なことになりました。48年の暮れ、田川氏が知事になった翌年の暮れになるのですがトイレットペーパーを買うのにうちのかみさんも並んだし、私も砂糖を買いに走った記憶があるんです。そういう、狂乱物価の大衝撃の時代でした。

それから、三重県にとって忘れてならないのは、ず～っと続いていた公害問題、環境問題が四日市公害裁判判決という形で、47年にある種の結論がでたということです。先程私の御紹介の中に中南勢開発計画というのがありましたが私は中南勢開発計画を作る部屋にも2年程おりまして、この計画の幕引きを手伝いました。伊勢湾埋太郎さんが言ったように日本鋼管のような造船所やコンビナートをずらりと並べようという計画があったんです。けれどこの計画は、漁民の了解とか、環境を大事にしようという人たちの賛成を得られぬまま幕引きをしました。

それがこの頃です。

2. 第一次長期総合計画の策定方針

時代が変わっていく中で、新しい計画を作らなければならないという理由づけがだんだんと私の頭の中で浮かんできました。時代が次々に変わっているということ、三重県がかつてもくろんだ臨海型の大規模開発は、見直さなければならない。緑と環境保全を重視しなければならない。それから労働者であるとか消費者であるとか、身体の不自由な方とかお年寄りを大事にしていかなければならない、そういう時代であるということ。もう一つは、これは今でも私はいつも思っていることですが、三重県らしさというものを打ち出さなければならない。幸い田川さんのような知事をお迎えしたのだから……。どこかの県の計画をもってきて表紙をちぎって、三重県長期総合計画としてもある程度通用するんですね。そういうものは作りたくない。三重県らしいものを作るべきである。そういうことを理由にして、新計画の作業にびくびく入っていったのです。

今まで、裏話的なことを申しましたが、私は皆さんのように専門的な教育を受けていませんので、自治省からりっぱな船長をお迎えしましたが、あとのクルーズはいい加減だから、どこへ船が着くかわからないということで、キャップは心配だったのでしょね。20万円やるから本を買ってこいといわれまして、当時の20万円というと、大変な額でして私も本を買うのは好きでしたが月給が安かったものですから本を買っている人を見るとうらやましいなあと思いました。ですから20万円もらった時は喜びいさんで、読む時の苦勞も考えず「行政計画の理論と実際」、これは計画を作られる方でしたら必ず読まれると思うんですけど、日本行政学会が助草書房から出しているんです。この本とか、「日本の経済計画」、「ライフサイクル構想」、「田園都市構想」といったような本をたくさん読みまして吉田山会館にこもっていっしょうけんめい勉強しました。

「仕事はだんどり」という言葉があります。私も本当に仕事はだんどりだと思えます。例えば、皆さんこれから御卒業して——県庁へ入ってほしいですね。き

れいな人ばかりですから——まあいろいろな所へ勤めて、仕事をするわけですが、仕事をする全体のエネルギー、手間、暇をトータルで10とした場合に、8まではだんどりだと思うのです。だんどりの悪い仕事だと手戻りになります。どんな仕事も時間との競争でもあるのですが、時間がある限りだんどりを先ずキチッとすべきだと思います。だんどりをする時に、文章で書いている人がいますね、例えばある会社の再建を任された場合に、長々と「我が国の経済は……。」とか書いてくるんですね。長い文章を書いても社長は読んでくれないと思うんですね。県庁でも、私は読みません、そんな文章は。忙しいですからね。そういう時はチャートにすると良いのです。これは、非常に便利です。先生方も学生の論文を読む時、今のまんが字で読みにくいのがありましたらチャートで書いてこいと驚かすと思います。上手にチャートで書いてこられて、わからなかったらわからない方が悪いんです。というのは、これをきちんと言おうと思ったら本当にわかってないと書けないんです。長い論文を書けるぐらい物事がわかってないと上手なチャートが書けないのです。

3. 行政計画の3部構成

行政計画の3部構成ということがいわれています。レジメにもありますが、構想編(Vision)、計画編(Plan)、推進計画(Program)の3部構成です。私たちが長計にとりかかった頃は、だいたい地方自治体の計画がこういうかっこうに固まってきておりましたので、初めて三重県の計画でも構想編、計画編、推進計画の3部作でいくことにしました。

① 構想編

構想編というのは、田川知事なら田川知事の政策をかなり長期の展望にたって、私たちの計画は50年頃作業を始めまして、60年为目标でしたから、10年先を見通してどういう展望に立って行政をしていくべきかというのが構想編、私は、これを県民共通のゴールを描くという表現をつかっているんですが、県民皆さんに三重県はあのゴールを目指して走って行くんだなあというゴールを描く、これが構想編です。300頁の中の約 $\frac{1}{4}$ 、70頁を使いましてこの構想編を

書いております。ここでは、主に福祉と土地利用を構想編の目玉にしたわけです。福祉という福祉というのは、行政計画としては非常に書きにくい、表現しにくい分野なんです。なんとか福祉を目に見える形にしよう。福祉の指標化といいますか indicator を求めるということで福祉指標を作ることになりました。福祉指標というのはこの当時非常にはやっておまして、他の県でも盛んに採用していた頃です。三重県もやろうということになりまして、それではどのようにして作っていくかなんですが、3とおおくり方法がありまして、1つは全国平均を仮に50とした場合、三重県はいくらかというふうな比較をします。2つめは、学者であるとか、その道の専門家に何回もアンケートをしまして——デルファイ調査というのは御存知だと思いますが——同じ質問を数回ぶつけまして、考え方を収れんしていくというやり方をします。それともう1つは、アンケート調査で住民に直接聞く。「あなたは幸せですか？」というふうに聞いていく。こういう3つの方法があるんですが、私たちが採用したのはアンケート調査です。3,000くらいの標本を対象に県民の福祉に対するアンケートをしたのです。もう一つの作業は、三重県の福祉の現状がどうなっているかという調査をしました。例えば、短期大学がいくつあるかとか、高等学校がいくつあるかとかいった現状調査です。それとアンケートを組み合わせ、三重県の福祉は何点位だということを示そうとしたのです。その結果は、3つの項目にまとめまして、1つは三重県内の福祉を全体で100とした場合に、その内訳はどういうふうになっているか調査をしたわけです。一番してほしいという要望の多かったのは、何だと思えますか。住宅問題だったのです。住宅を何とかするべし——それから教育とか福祉とかでした。そしてもう1つは同じ福祉の満足度でも、津の方と尾鷲の方では違うのです。都市部と田舎では違いますし、住んでいる地域で満足度というのは違うんですね。それを点数化しようということだったのです。

従来、地域によって人間の充足度というのはどう違うかというようなことを調べる場合に、三重県では、四日市、桑名を中心とする北勢地域、この辺を中心と

する中勢地域、それに、伊勢・志摩、伊賀、東紀州といった5ブロックでやるのですが、これはいけないといった5ブロックでやるのですが、これはいけないと思うのです。例えば、北勢地域でも、員弁の奥の方と四日市市内は違いますし、小さな市とはいいながら尾鷲市のまん中の人と山奥の方は違うということで、クラスター分析というのをやりました。地域の似たもの夫婦を集めたわけです。三重県内の似たもの地域を9種類に分類して集めまして、大都市、中都市、工業都市、農産部といった具合に分けてあなたの地域では何が足りませんか。これはどうですかという聞き方をしていたわけです。このようにきめ細かに調べていきました。これは本当の話でして、北勢地域は進んでいる、大都市に近いとひと口に言いますが、実際中に入ってみると、いろいろです。松阪の方でもそうです。それからもう1つは、国の福祉の平均を50としてその50を中心に三重県は何が足りている、何が足りてないも物差しを作っていたわけです。ただ、私は、

ただ、私は、福祉指標というものに技術的に未解明のものがあるということで終始反対していました。例えば、学校がいくつあるとか、鉄筋の橋がいくつあるかというのは数字でカウントできますけど、あなたは幸せですか、あなたの余暇はどの程度充足されていますか、というのを点数にしようとしたって無理な話でして、私は、無趣味で、ゴルフ、麻雀、碁も知りませんし、パチンコもさわったことがありません。ただ将棋は好きです。それで、私は、余暇の満足度ってどうやってはかるんですとききましたら、図書館に本が何冊あるか、映画館が何軒あるか、ボーリング場が何軒あるか、そういうので余暇の満足度をはかるということなのです。それなら将棋盤はどうなるんや／＼と言いましたら、そんなことは無理な話。それからもう1つは、有り余る程幸せでも、まだ不満を言っている人、ポロは着てても心は歸といったようにいつも私は満足ですという人、そういうのを聞いてまとめて点数にしたってそれは学術研究なら通用するけれど、県の計画にそういうものを持ち出したら私は自信を持ってないと言いました。今でもあれはどうだったのかという気がしています。私がかしつこく言いましたので、少しだけ本文に、技術的に未解

明な部分があり将来にわたって、福祉指標については三重短大で研究してもらおうというようなことを書いてあるので、ご検討頂きたいと思います。

構想編の目玉のもう1つは、土地利用ですが、こっちは、私が担当しましたが、これこそ、デジタル化が可能なのです。例えばこの教室のスペースをメッシュに切っていきますと、その切ったひとコマ、ひとコマの傾斜であるとか、どういう使われ方をしているかというのとはわかるのです。三重県も広いですけど1畑とか05畑とかに切って、そこの土地が痩せている、ビルが建っている、田んぼになっていると調べていったら、一目瞭然、三重県の土地がどういう使われ方をしているか。将来どう使われるべきか、科学的にでてくるんです。ただこれはすごいお金がかかるんです。5千万とも1億とも言われるほどで、コンピュータを駆使してやるとお金がかかります。我々は1つの方法として可能とはわかりましたが、このメッシュ法はとらなかつた。私たちがまず始めたのは、土地と人間というのはどういうかかわりがあるんだろうというところから入っていったのです。土地はどういう使われ方をされているか、ということです。それで私たちが行きつきましたところは、“住むために使われている” “働くために使われている”、そして“憩うために使われている”という3つの側面から三重県の土地の利用について、計画化をしていこうということでした。あとで知事は憩うの次に学ぶというのをつけました。ですから今は、知事は、住む、働く、憩う、学ぶという言い方をしております。ちょっと言い訳がましくなりますが、私は憩うの中に学ぶを入れたつもりなんです。やはり、学ぶと憩うは違うんですかね。余談ですが、今でも学ぶは憩うの中に入ると思っています。

構想編の土地利用のところで、私は2つの目玉を作っております。その1つは、三重県の都市がどうあるべきかということです。三重県には御承知のとおり、13の市があります。行政上の都市と市は違いますが、ここでは市を都市と考えて13の都市が並んでいます。この都市の中のいくつかをもっと大きくするべきであるという議論と、これはこのままにしておいて、連携させればよいという議論の2とおりありまして、私たちが

とりましたのは、碁石を並べたように、連珠状の都市と呼んでおりますが、四日市市をどんどん大きくして、30万、40万都市にするのではなくて、それぞれの地域に拠点都市を育成してこれを連携していくべきであるということこの計画の中に書いたのです。

それからもう1つは、伊勢湾をどうするかという問題です。愛知県の方もおられるそうで、さしきわりがあるかもしれませんが、東海三県、愛知、岐阜、三重とありますが、いつもいいかっこうされるのは愛知県なんです。先に愛知県の知事さんがパーッと言われるんですね。あとで三重県の広報課長がおこられるわけです。どうして、三重県が先に言わなかったのかと。そこでひとつ愛知県より先にいいかっこうしてやろうということで、この長期総合計画の中へ伊勢湾の利用についてというのを書くことにしました。知事のところに持って行って、長計で伊勢湾を書きたい、愛知県に先にけん制球を投げてやるべしということになりました。その時に、知事が私に言いましたのは、伊勢湾というのは、母なる海である。母なる海について、言及するということは極めて、恐れ多いことであるから神にひれ伏すようなつもりで伊勢湾について書けと言われ、困りました。中身は納期までにできたのですが、書き出しがどうしようもないのです。困り果てまして、今、松阪木綿の田端さんという方がいるんですが、この方がこの当時、県庁唯一の物書きと言われておまして、私は非常に尊敬をしていたものですから、田畑さんの所へ行きまして書き出しを教えて下さいと言いました。そうしたら、そんなことはちっとも難しいことはない。伊勢湾と三重県は切っても切れない間柄じゃないか。伊勢湾があつて三重県だし、三重県があつて伊勢湾だよ。そう書いたらいいじゃないか。ちょうど夕方の4時頃で、夕焼けが窓に映ってまして今でも覚えています。それで書き出したのがちょっと読ませてもらいますと「三重県の歩みはその歴史においても、将来の展望においても、伊勢湾と切り離すことはできない。その長い海岸線と広い内海は交通産業面はもとより、県民生活における潤いと憩いの場として、さらには気候・風土のうえからも三重県とは密接なかかわり合いを持っている。」というもの

でした。わずか4行ですけど、このような文章を朝の4時頃までかかって書きました。知事のところへ持っていきましたら、まよよかろうということで、今無事に活字になっています。そんなところで構想編の土地利用のところでは、都市のあり方を方向づけたのです。4・5日前に、慶応大学の加藤先生の講演を聴きに行ったんですが、加藤先生も、今はもう大きな都市を作る時代ではない。中小の都市が競いあって特色を出す時代である。ということをおっしゃっておられました。我々が十数年前に三重県について出した結論が当たっていたなという気がしております。それから三重県の大きな問題

それから三重県の大きな問題の中に原発問題といひのがあります。これを規定しておりますのが、電源立地四原則といひのがあります。『県民の福祉に役立つこと』『環境との調和がはかれること』『地域住民の合意が得られること』『安全性が確保されること』、これが三重県の原発に対する四原則なんです。『福祉に役立つこと』、『環境は大丈夫か』、『住民はOKと言ったか』、『安全性は大丈夫か』、この四原則を三重県は掲げているわけですけど、この初めの3つが私達が長期総合計画の作業の時に、伊勢湾について書いた文章と同じなんです。伊勢湾の今後の利用については、『福祉に役立つこと』、『環境との調和がはかれること』、『漁民のみなさんもふくめて合意が得られること』、それに安全性が加わったのが今の原発の四原則になっているわけです。後でこれを知りまして、複雑な気持ちになりましたけれど、我々計画屋に向かって、「また紙くずを作っているのか」という人もいますけれども、決して計画は紙くずではないと、例えば都市の問題にしましても、伊勢湾の問題にしましても計画は生きているということが言えると思います。

② 計画編

今度は計画編の方ですが、技術的な話になりますので、レジメにもいろいろ書きましたが、例えばあなたならあなたの生活をひとつのボールに例えますとそのボールの中にはいろんなものが入っているわけです。健康の問題、教育の問題、安全の問題、労働の問題、そういったものを県庁ではいろいろな課で仕事をしているの

ですからこれをどうやってまとめていくか。これを体系化といひます。丸いものを広げまして、どうやってまとめていくかといひのが計画の体系化といひことなんです。例えば老人をとりあげます。老人といひのを見る場合に切り口がいくつもあります。例えば健康、福祉、生きがいといひのような切り口もありますし、家にいる老人、病院に入っている老人、施設に入っている老人といひ切り方もあります。それから60歳くらいの初老、70くらいの中老、80くらいの一言葉は悪いですが——終老そういひ切り方もあります。1つの施策をいろんな切り口がありますのでその切り口をまず見つけていくと、県の行政はいろんなことをしているわけです。大きな柱だけで20くらいたてまして、その柱の次に小柱をたてまして、小柱の次にまた小柱をたてましてといひように県の仕事を吹き流しのようにはらえていまして、いちばん右端に一つ一つの仕事があるわけです。広報の仕事、電波、活字といひように、それを全部洗い出すと数百になるのですが、その数百についてこの計画のようにはらえていくといひような気のおくなる仕事をするわけです。老人ひとつとりあげましても、切り口がいろいろありますので、議論をしながら計画を作っていったのです。

もう1つは、しよせん地方の時代といひられていても県は県ですから国の考え方を横にらみしながら計画を作りませんと——昔は三重県だけいひかっしてもよかったのですが、最近では国の施策と整合をとりながらやりませんと——損をする場合があるのです。だから今、国はどういひことを考えているかといひことを、整合性をもたせながらやっていく。ところがこれが難しいのでして、できるだけ先取りをしたいわけなんです。国がいひ出す前に三重県が先に言わないと。しかし、まちがったことを先にやりますと後で恥をかきますから大変難しい。ですからこういうものを作る時は、まず、国の審議会、最近ですと臨調とか、そこでどういひ議論がされておるかといひことを調べるのです。それから学者先生がどういひ論陣をはっておられるか資料を集めてきて研究するわけです。そしてこれはきつと具体化されるぞといひものについてはキッチリと書いていくといひことなんです。そこで私のやったの

は、ボケ老人対策 — 三重県はボケ老人対策の先進県 — といわれています。長期総合計画にも書いています。そういったことで計画編はわりと身近な問題を細かくとりあげて記述をしていきます。

それから計画の具体性ということですが、具体的に書きますと、書いた後で問題もおこるわけです。ところが具体的に書かないと、あんな物は作文ではないと言われるわけです。具体的に書きたいけど書けないという時は、計画によってはいろいろ約束があるようでして、例えば三重短大をりっぱにすると書きますね、これが一番いいわけです。昭和何年までに三重短大を建て替える、関係者はそう書けと言うわけです。私たちも書きたいんですが書けないときには「三重短大の建て替えを推進する」と書くわけです。推し進めるとね。これは言いきったのよりちょっと弱いんです。その次は「三重短大の建て替えを促進する」と書くんですね。推進と促進はちょっとちがうんです。推進というのは自分でやるわけです。促進というのは促がし進めるわけですからだれかにやってもらうわけです。お手伝いですね。その次は、「三重短大の建て替えを検討する」です。このへんになるとだいぶあやしくなるんです。その次は「～等を進める」と書きます。三重短大どうしてくれるんだといわれたら、「この“等”の中に入っているのです」となるんです。こういうやり方もあります。というわけで計画の具体性というのは非常に難しい。この辺は企画屋さんと財布をにぎっております財政当局との一騎打ちになります。私の経験から言いますと、大王町にいこいの村という勤労者の施設があります。それから、一身田に身体障害者総合福祉センターがあります。これは整備をすると書いてあります。で、ちゃんと建ちました。美術館もそうです。しかし中には、未だに「検討する」、「促進する」があるかも知れません。それはそれで実情があるわけですから広報課長を責めないでほしいのですか、計画には具体性が必要だということでございます。

③ 推進計画

それから、こういうわけで、構想編と計画編ができるわけですが今度は別冊で、推進計画というのを作るわけです。推進計画というの

は、3ヶ年ずつのころがしの計画です。例えば、私が幸せな家庭を築こうと結婚するとしますね。かわいい子を産んで育てよう和新婚の時だれでもそう思うでしょう。これが構想編ですね。10年の間に、男の子と女の子を作って、私の場合、そうはいかず男の子2人で「すね」をかじられて今困っているのですが、こういう計画、もうちょっと近い話になりますと借家住まいをいつまでもしてられないから、3年くらいの間にマイホームを作ろうかということで、でもなかなか思うようにいきませんから2年くらいたつと、3年と言ったけどまた3年後にしようかと、こういうことで推進計画になるわけです。これは別冊で3年分ずつ作っていくわけです。ですから計画の3部構成といいましたけども、構想編があって高々と打ち上げて、計画編で細かく作って、そして推進計画でそれをきちんとフォローしていくというのが私どものもっている計画の構図です。

3. 自治体計画の効用

それから計画と自治体の効用ということなんですが、本当はこれを一番申し上げたかったのです。もちろん計画というのは、私がよく悪口を言われるように紙くずを作っているわけじゃないんですから、計画に従って、県政が動いていくというのが当然の計画の効用だと思いますけど、それ以外にも計画の効用というのはいろいろございます。ひとつは、公表効果（announcement effect）というんですが、例えば所得倍増と池田さんが言ったわけじゃないんですけど、このようなことを言いますと世の中がパァーと明るくなりますね。そういうように計画を作りますと三重県が、当時の広報課長がパァーと宣伝しますからとたんに展望がひらけるわけです。そういう公表効果があるわけです。ただ私は思うのですが、もう今はバラ色の計画ははやらないと思うのです。今私たちがもっている計画は決してバラ色ではありません。これから作る計画はむしろ問題提起型の計画でなければいけないと思うのです。複数の案を提案していく、例えば三重短大の建て替えを仮に書いたとしても、複数の案を計画の中に盛り込んでいって、できれば優先順位をつけながらそ

れを提案していくという計画になると思うのですが、それはそれとして計画ができますと、公表効果というのがございます。

それからもうひとつは計画というものは企画と置き換えてもいいと思うのですが、しょせんは危険排除だと思います。冒頭、私は企画という派手だと思われがちと言いましたが、決してそうではありません。いかにして田川県政が歩いていくうえで大きな石とか溝を取りのぞいていくか、あるいはどうやってのり越えるか、将来にわたって危険排除をしておくというのが危険排除即ち計画だと思います。だから、おろそかに書きますと石につまづいたり溝にはまったりします。これは、企画屋としてもっとも恥じるべきことだと思います。

もうひとつ最後にお話したいのは、私は今日こういう所で話す資格のない人間ですけど、話をさせてもらっているということは、この計画に携わった時に私は一生けん命になって知識の貯金をしたわけです。計画が終わってからももう少し貯金しましたから利息もつきましたし、38才から40台前半にかけて、貯金をし、その利息はもうなくなったかもしれませんが、元金をこうやってみなさんにお話できる大きいプロジェクトに携わると何よりも自分の勉強になる、県庁もそうです大きな会社でも修羅場をくぐりぬけた人間を常時もっているということは大変な財産だと思っています。そういう経験者の知恵は減りませんからね。もらって迷惑になることはあっても、荷物にはなりません。ですから計画作りに携わるというのは大事なことじゃないかと思えます。

4. 三重県の当面する課題

第一次長期総合計画につきましては以上で終りたいと思いますが、最後にせつかくの機会ですから、三重県が今どんな問題をかかえているか話したいと思います。ひとつは、昭和69年世界まつり博というのをしようという計画があります。御承知のように68年に伊勢神宮の御遷宮がございまして、たくさんの方が三重県を訪れますのでその翌年に三重県で世界のまつりと呼んで世界まつり博をします。今年の知事の年頭あいさつでも言っておりますが、今年がスタートの年であると新聞にも載っています。それから

国際リゾートゾーンというのが最近さかんに言われておりますが、県庁の3階の政策課の入口に、国際リゾートゾーン推進本部という看板がかかっております。ここで、三重県の伊勢志摩から南にかけて、世界に通用する大リゾートゾーンを作ろうととりかかっております。1月4日に中曽根さんが三重県へこられた時、伊勢で記者団に三重県に国際リゾートゾーンの可能性はどうかと質問されて、三重県はいい所です、とおっしゃってかなり評価をしてくれました。国際リゾートゾーンに向かってこれからやっっていかなければならないと思っております。それから国際空港の問題があります。今、大阪空港の着工、成田の拡充、羽田の拡充その次ぐらに伊勢湾のどこかに国際空港をつくろうと、愛知・岐阜・三重が集まりまして検討しております。なるべくなら三重に近いところをと思っておりますがこれは専門家の研究に待たなければいけないと思っております。国際空港に関連しましてコミュータがいわれています。これは地域空港といいますか、ちょっと小さいのです。今、東京へ行くのに3時間半かかります。熊野・尾鷲へ帰るのもやはり3時間半です。たいへんなことですね。飛行機でひとつ飛びというためにコミュータを検討しております。それから伊賀上野では、上野新都市構想というのがありまして、研究がおわって、既に用地買収にかかっておりますし、松阪では松阪中核工業団地というのがあります。

先程申しましたが、年頭の知事の挨拶というのは広報課が書くことになっていて11月頃書いたんですが、ずっと書いてきて、来年の抱負という所でつまりまして、昔ならいっぱいあったのに世の中がおちついているのか、難しいのか大変困ったんですが、世界まつり博を県民共通のゴールとして成功させたいと思えます。

おわりに — 「広報」の広報 —

それから広報の広報について、広報課の広報ですが、約2億のお金を使いまして県庁のいろいろな宣伝をしております。電波で約1億、三重県提供番組というのがあるんですよ。見て下さいね。三重テレビなどでやっております。来月の1日～6日まで、新聞の三重

版の下に私の店が扱っている商品（広報番組）の一覧表がでますので、切りとってどこかへはっておいて下さい。6千万円程で新聞の広告もしています。それからもう6千万円かけて自前で県民グラフを1万部作っております。歯医者さんや床屋さんでみて下さい。今まで表紙も風景とかが多かったんですけど、地場産業をほりおこそうということで日永のうちわをやりました。あと松阪木綿とかね。全部、職員がするんです。金持ちの県は電通とかにもって行ってりっぱなのを作るんですが、本当に大変なんです。中の文章も大変工夫されています。手こねずし、鮎料理なんかね。みなさんも広報課へきませんか。もう一つは一軒ずつ配っているんで

すが、いろんなお知らせとか、これは50万部・送料が高いですから、この2つで約6千万円です。県民1人あたり約130円位の広報費を使いまして三重県の広報をしております。来年も広報課長をしておりますら、これは、初めて公開するのですが来年のキャッチフレーズ、**“すばらしい三重”**というのをメインに**“うつくしい三重”****“やさしい三重”****“たくましい三重”**と体系化して、2億円の金を使って大キャンペーンをはりたいと思っておりますので御声援頂きたいと思います。最後の方はメロメロになりましたが、これで終りたいと思います。どうもありがとうございました。

（文責 平野）

〔 受入図書一覧 〕

本研究室が昭和60年7月～12月に受入れた図書は次のとおりです。

婦人労働の実情（昭和60年版） 労働省婦人局
厚生白書（昭和60年版） 厚生省編
地域経済の変容過程－熊本県の経済と社会－
北古賀勝幸・井上吉男
家庭機能とその施策の充実の方向に関する調査
報告書 経済企画庁国民生活局

消費構造変化の実態と今後の展望
－「大衆消費」から「消費ルネサンス」へ－
経済企画庁国民生活局

鉄道六法（昭和60年版）
運輸省大臣官房国有鉄道部運輸省地域交通局監修
建設六法（昭和61年版） 建設省文書課監修
税法用語辞典 昭和59年改訂新版 鎌田正監修
市民統制と地方自治 高寄昇三
都市政策論集 第7集 経済開発の理論と実践
神戸都市問題研究所
公立大学 その現状と展望 内田穰吉・佐野豊
新山村事情 小島麗逸

現代資本主義叢書20
日本の経営・地域・労働者 上巻 北川隆吉

現代資本主義叢書21
日本の経営・地域・労働者 下巻 北川隆吉
地域のなかの公務労働 重森 暁
科学全書14 大学入試制度 佐々木享
現代の都市政治 比較・実証研究 土岐 寛
地域経済学体系 地域政策の計画と適用
坂下 昇他

21世紀の産業立地ビジョン
通商産業省立地公害局工業再配置課監修
新情報論 組織・関係・情報の新たな展開
経済企画庁総合計画局編

21世紀の福祉型情報通信システム
郵政省通信政策局編
航空行政の現状と問題点 ー総務庁の行政監察
結果からみてー 総務庁行政監察局
公益法人の現状と問題点 ー総務庁の行政監察
結果からみてー “
電報事業の現状と問題点 ー総務庁の行政監察
結果からみてー “
漁業振興の現状と問題点 “

青少年と活力 総務庁青少年対策本部編
 総合レビュー 科学技術情報活動の現状と展望
 第7巻 データベースの高度利用

科学技術庁

情報化時代の消費者政策
 経済企画庁国民生活局消費者行政第一課編

社会参加活動の実態と課題
 経済企画庁国民生活局国民生活政策課編

中小小売商業の情報化ビジョン
 中小企業庁小売商業課

図説 くらしの国際比較 国民生活センター
 情報武装型卸売業ビジョン

通商産業省産業政策局商政課
 生産性向上技術の新事情 マイクロエレクトロ
 ニクス化の進展と産業・雇用の変化

通商産業省産業政策局企業行動課
 転換期の人材開発

産業政策局大臣官房企画室編
 平和問題研究会報告書 国際国家日本の総合安
 全保障政策 内閣官房内閣審議室総合安全

保障政係閣僚会議担当室
 消費者物価指数年報(昭和59年) 総務庁統計局

貯蓄動向調査報告(昭和59年) ”

家計調査年報(昭和59年) ”

地方財政統計年報(昭和60年)

地方財政調査研究会
 労働力調査年報(昭和59年) 総務庁統計局

国民経済計算年報(昭和60年版)

地域経済総覧 臨時増刊1986 高柳 弘

実務衛生行政六法(昭和61年版)

厚生省健康政策局他
 市街地再開発'85

建設省住宅局市街地建築課監修
 再開発関係文献資料集

—主要文献便覧・文献目録—
 全国市街地再開発協会

〔編集後記〕

2月。いずこの例にもれず、年度末を控えて
 地研も忙しい季節である。Aプロジェクトは鳥
 羽駅前再開発調査の終盤を迎え、Bプロジェク
 トは「三重県における生涯教育の現状と課題」、
 三重県及び桑名市・鈴鹿市・名張市の同和地区

日本の都市再開発
 市街地再開発事業の全記録 全国市街地再開発協会
 教育実践事典1 教育実践事典刊行委員会編
 教育実践の論理と構造

” 2 ”

教育指導I ” 3 ”

教科指導II ” 4 ”

生活指導 ” 5 ”

地域に根ざす教育実践

近畿圏の交通事情 梶原 清
 ホテル旅館ハンドブック 60年度

レジャー産業研究所
 数字でみる観光 1985

運輸省国際運輸観光局
 NIRA OUTPUT

クルマ時代の地方都市交通政策
 総合研究開発機構

自動車六法(昭和61年版) 自動車法規研究会
 海事法令シリーズ5 港湾六法(昭和60年版)

運輸省港湾局監修 海事法令研究会編
 地域振興プロジェクト総覧 地域振興問題研究会

数字でみる 民鉄'85 運輸省地域交通局
 日本国有鉄道監査報告書(昭和59年度)

日本国有鉄道監査委員会
 観光統計要覧 1984(1964~1984) 日本観光協会

海事法令シリーズ1 海運六法(昭和60年版)
 運輸省貨物流通局監修

社会福祉選書10 老人福祉論 松崎桑太郎
 講座 差別と人権7 高年者

磯村英一・一番ヶ瀬康子・原田伴彦
 地方財政計画(昭和60年度) 自治省

国際観光の新たな発展のために
 内閣総理大臣官房審議室

生活実態調査の最終段階に入っている。研究員
 諸氏の労苦の末に生み出されていく諸成果が、
 机上のホコリにまみれることなく、県民に広く
 活用されることを願ってやまない。(平野)